

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録 (2013.12) 平成24年度:143.

消化器外科病棟に勤務する看護師のがん患者との看護体験の語り
ーリフレクションの手法を用いてー

瀬川澄子

消化器外科病棟に勤務する看護師のがん患者との看護体験の語り

ーリフレクションの手法を用いてー

旭川医科大学病院 瀬川澄子

消化器外科病棟に占めるがん患者の割合は年々増加している。看護師は、手術や化学療法、放射線療法など集学的な治療を行う患者と関わる機会が多い。今回、がん患者やその家族を取り巻く状況からがん看護実践にともなうリフレクションのプロセスを明らかにすることを目的とする。

対象：A病院B病棟に勤務する経験3年目以上の看護師4名

方法：半構成面接法にて、介入事例の要約、問題意識の意味づけ、看護職としての思いを語り、感情の振り返りなどをともに行う。得られたデータを逐語録とする。まとまりのある要素をカテゴリー化し分析する。

倫理的配慮：趣旨を説明し書面にて同意を得た。

用語の定義：リフレクションとは、体験から得た自己の気づきを丁寧に振り返ることで対話を通して経験を意味づけるプロセス。

結果：【がん看護の知識およびコミュニケーションスキル不足を自覚】

「実習では想像していない。看護診断と介入が結び付かない」「先輩の記録や日々のカンファレンスで獲得した」など基礎教育では学びえなかった知識不足と技術を自己の体験や学習で獲得していた。【患者・家族との信頼関係を形成する】「進行がんの手術、その後の治療、人工肛門のセルフケア、退院支援など意図的な介入場面から関係性を築いていった」「バッドニュースのあと患者と向き合った」「病期をみすえ早期から家族への介入が大事だ。」【がん患者の体験を意味づけすることで看護へのやりがい感を生じる】「患者のこれまで生きてきた人生を振り返ることで、強みも分かり肯定的にフィードバックできた」「ことばの持つ意味を知る」「前向きな生き方を知り看護師として何ができるかを考えた」

考察：看護師は、がん患者との看護体験から自分自身の行為や思考を振り返り、自己の看護観を見直す機会となり、実践している看護を理論化し具現化することで達成感を得ることができたと考える。